
劇場版 魔法少女リリカルなのは外伝 オーガザブレイブ

龍神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

劇場版 魔法少女リリカルなのは外伝 オーガザブレイブ

【コード】

N5556W

【作者名】

龍神

【あらすじ】

これは、ゼロの新たな物語の序章

序章

ゴゴゴオ

轟雷が鳴り響く。

そして丘に佇む一人の黒い鎧を着た青年が
こちらに向かつてくる4人の少女に言葉を紡ぐ。

「来たか……」

言葉を発すると、青年は立ち上がり首に下がった
翠の宝玉を掴んで上空に投げる。

「フェンリル！」

青年が相棒の名を呼ぶ、すると宝玉　フェンリルは光を放ち、彼の
の刃となる！目覚めた両刃剣は、ギラギラと得物を求めて鈍い光を
放ちながら、主の手に握られた！

「今度こそ……決着^{ケリ}をつけてやるぜ！！」

怒号と共にその4人の少女へ向かって行った
その姿はまるで、流星のようだった。

彼の名はゼロ・エルグランド。

数百年からの眠りから覚めた、古代ベルカ王国の遺児は、“約束”を胸に抱き、新たな物語を作り始めたのだった。

一方、空では

トーレ「ライドインパルス!!」

セツテ「スローターアームズ!」

「バルディエル!!」

バル「ラウンドシールド」

ライドインパルス
超高速移動を活かした速度と手足に生えた8枚のエネルギー翼できた『インパルスブレード』と手に持っている長いブーメラン状の刃を投擲し高速回転させる2人の少女。

白髪の青年はその攻撃に対応するべく、目の前に魔法陣を使用した円形の盾を作り出す!

だが…

「バリアブレイク!?ぐうああ!!?」

白髪の青年は展開した盾で『ライドインパルス』は防げたが、高速回転し続ける長いブーメランに盾を破壊され地上へ落下していく。

トーレ「諦める、ノエル・ブローニング！」

セツテ「貴方に勝ち目など無い」

地上に落ちたノエルという男を追ってトーレとセツテも地上に降りていく。

デイド「IS、ツインブレイズ」

ウェンディ「エアリアルレイヴ！」

ディエチ「…ヘヴィバレル」

ノーヴェ「うおりゃあああああああ！！」

振り下ろされる双剣を紙一重で回避するゼロ。

そして間髪いれずに襲いかかるオレンジ色の砲撃と桜色の弾丸！

だが、ゼロは後方に飛んで回避するも目の前で爆発が起き、爆煙の中から赤髪の少女がローラーの付いた足具を回転させ強烈な蹴りをぶつける！

ゼロ「ぐっ！？……うおおッ！！」

その一撃を両刃剣の表面の刃で防ぐが、衝撃で地面を擦り付けながら後ろに押し出される！

ゼロ「ッ……………なっ!？」

ドオンッ

地響きが鳴る。その寸前で墮ちていくノエルを見たゼロは駆け付けようとしたが、後から追いついて来たトーレとセツテに道を阻まれる。

トーレ「ここから先へは行かさん！」

ノーヴェ「てめえは、ここでぶっ潰す！」

ダイエチ「ごめん…でも任務だから……」

ウエンディ「謝る必要はないツスよ、ダイエチ？
どうせこの人はここで死ぬんツスから……!」

ダイエチ「……………」

6対1、ゼロにとっては不利な状況だが…

ゼロ「(ノエルが来るまで一人でも多くッ……………!)」

ゼロはフェンリルを構えて戦闘体制に入る！
すると、6人の少女が特攻を仕掛ける！

ゼロ「() なんとんでも奴らの野望を……！」 はぁぁぁッ！「!

ゼロは6人の少女向かって走り出す!

ここに、ゼロの新たな戦いが幕を開けた――!

閑話 ゼロ・エルグランド

ゼロ・エルグランド CV:宮野 真守

身長 175センチ

体重 55キロ

年齢 不明(見た目が18歳ほど)

魔導師ランク S+

出身 古代ベルカだが、氷結魔法『ヘイムダル』により、ベルカ神殿奥地で永い眠りについていた

魔法術式 古代ベルカ式。剣術で近接戦闘型。

稀少技能 レアスキル

無の左手 起動させれば、全ての魔力結合を分断させることができる
だが、使えばリスクがあり、多用すればするほど己の魔力・生命力を失っていく。

デバイス フェンリル 人格型ベルカ式カートリッジシステム型アイテムデバイス

『ソードビット』 一対多勢力用の補助ビット。

全機で6つあり、その機能の全ての

制御を担っているのはフェンリルである。
シールドとしての使用も可能。

形状 両刃剣 ボルトアクション式。六つまで装填できる。

柄が二重構造になっており、装填の際は柄の中に入っているカードリッジ補給口伸長して露出

弾丸を補給した後柄の中に移動して装填となる。

待機フォルム 翠色の球体ペンダント（なのはのRH待機フォルムの翠色ver）

騎士甲冑 黒い装束に左肩には黒いシオルダーと胸部を守るためにプロテクターを付けている。

左腕には『無の左手』を制御するために黒い布を被せている。

下記の絵画を参照

性別 男

本作の主人公。性格は少々荒っぽいが、心の奥底には優しさもある。髪型は長髪の黒色、青く鋭い瞳をしている。

古代ベルカでは聖王オリヴィエ直属の守護騎士に属していた。だが、自ら死地に赴く（ゆりかごへの搭乗？）オリヴィエを止めようとした際

聖王配下の魔導師により、氷結魔法『ヘイムダル』で永き眠りにつくことになる。

オリヴィエからは信頼されておりクラウスとの（武技に関しての）

面識もある。

永いこと眠りについていたが、それから300年・・・氷が解け、ゼロの新たな物語が始まる。

『ブラッドモード』

ゼロの『フルドライブ』

発動時に瞳の色が紅くなり、本来の戦闘能力・魔力を限界まで上昇させる事ができる

だが、一定時間使用すれば自身の身体に負担が掛かるため本人はあまり使用できない。

ファーストフォルム フェンリルの通常形態。

ユニオンフォルム 両刃剣から大剣の形状に変わる。斬撃・破壊力と共に抜群の威力を誇る。

『ブラッドモード』時にこの形状となる。

> i 2 6 0 3 1 — 3 2 4 4 <

閑話 ノエル・ブローニング(前書き)

新キャラ登場!

その名もノエル・ブローニング!

じゃんじゃん活躍させて行くぜえ!!

閑話 ノエル・ブローニング

ノエル・ブローニング CV:神谷 浩史

身長 178センチ

体重 60キロ

年齢 19歳

魔導師ランク S+

出身 ミッドチルダ西部アルトセイム（元は管理局所属だったが、JS事件でジエイル側に確保され、事件終了時まで

管されていた）
生体ポッドに入れられ保

魔法術式 ミッドチルダ式。魔力変換資質『電気』所有

デバイス バルディエル・アサルト インテリジェントデバイス（フェイトのバルディッシュとは兄妹機）

『ライフルビット』 一対多勢力用の補助ビット。

全機で8つあり、その機能の全ての
制御を担っているのはバルディエルで
ある。

形状 遠距離型バレルガン（他、双剣や二丁拳銃などの変形も可

能)

スピードローダー 6連装リボルバー式カートリッジ

リボルバーで弾を一度にシリンダーに装填するための装置。

スタンバイフォーム ブレスレットで真ん中に金色の宝石がはめ込まれている。

普段は左手首に嵌めている。

バリアジャケット フェイトと同じ『インパルスフォーム』の男着

下記の絵画を参照

性別 男

本作二人目の主人公。生真面目な性格だが、その使命に忠実すぎるがゆえ、やや融通が利かない所がある。

白髪でショートヘアな髪型で瞳は紅色。

元管理局所属で優秀な魔導師だった。だが、JS事件でスカリエツティのアジトを探索中に行方知れずとなり

事件終了時、アジトに保管されていたところをフェイトに救出された。

スカリエツティのアジトに居る頃は戦闘機人の実験をされていたが失敗に終わり

その後はずっと生体ポッドで眠らされていた。なお、ノエルの身体は実験で半分は

機械なので、スバル同様『戦闘機人モード』になることもできる。

ゼロと初めは、いがみ合いながらも徐々に互いを理解しつつ共に成長していく仲になっていく。

何故、フェイトのバルディッシュと兄妹機なのかは不明。

ライオット・カノン バルディエルの通常形態。

ライオットリボルバー 中距離射撃を得意とした二丁拳銃。 連射も可能。

ライオットブレード 必要に応じて一刀・二刀・連結刃と、使い分けでさまざまな戦況に対応できる。

> i 2 5 0 7 2 — 3 2 4 4 <

目覚める流星（前書き）

最近、中型免許を取りに教習行き始めて
さらに悩みが増えてきたような…

目覚める流星

ほんの数時間前

寒い……

冷たい……

悲しみの感情が湧いてくる……

俺は、オリヴィエを、聖王を見殺しにしてしまった。

俺にもっと力があれば……！

ゼロ「オ……リ……ヴィエ……」

ピシッ

突如、ゼロが眠っていた氷『ヘイムダル』が入り、徐々に崩れていく。

すると、中にいたゼロも目を覚まし地上に膝を付いて着地する。

ゼロ「ここは……俺は……！」

「ようやく目覚めたか。ゼロ・エルグランド」

ゼロの目の前に見知らぬ白髪の青年が立っていた。
その白髪の青年は淡々と言葉を紡ぐ。

ノエル「僕はノエル・ブローニング。

君の仲間……といったところだ」

ゼロ「何故、俺の名を知っている？お前はベルカの者か……？」

それにしても、見たことない服装だが……

そう思ったゼロの読みは間違っではないなかった。

ノエル「いや、今は新暦79年だ。君の言うベルカは300年前に滅んだ」

ゼロ「……そんな……うそ……だろ？」

俺は、300年も眠っていたのか！？それに……滅んだって……？」

ノエル「とにかく、今は話してる暇はない。奴らが来る」

ゼロ「奴ら……？誰なんだ？」

ノエル「それは移動しながら話す、飛べるな？」

ゼロ「ああ……」

ノエルが先に空に上がり、ゼロもその後が続く。

そこでゼロはある事に気付く、そこは自分が眠っていたベルカ神殿ではなく

別の世界であると……

ゼロ「ここは…一体どこなんだ？」

ノエル「さつきも言ったな。“ベルカは滅んだ”と…今のベルカは汚染が激しく、君を其処から助け出し、この世界に運んだ僕の“身体”は少し“特別”だからな」

ゼロ「どうして……そこまでして俺を……？」

ノエル「君の“左腕”のロストロギアが狙われている」

突然、ゼロの“左腕”の事を言われ、何故かその時“左腕”が疼きだしたのは言うまでもなかった。

ノエル「君の眠っていた氷、アレは外側から魔力を流し込むことで砕くことが出来る仕組みになっていた。

“奴ら”も既に気付いていた。だから、先に見つけ出しておきたかった！あの目的を阻止するために……！」

ノエルはクールそうに見えるが、顔に出やすいのだろうか
“奴ら”の話をするれば、怒りを隠せないでいる。

ゼロ「何があつたんだ？」

ノエル「それは……来るぞッ！」

ノエルが叫ぶと同時に背後から飛んでくるオレンジ色の砲撃それをゼロとノエルは左右に飛び、なんとか回避する！

デイエチ「ごめん外した……次は当てる」

トーレ「構わん、あとはー……」

ノーヴェ「アタシらが、ぶっ潰す!!」

ゼロ「何者だ、てめえら!!」

2人に向かってくる6人の少女!

それと同時にゼロもフェンリルを起動させて突っ込んでいく!

ノエル「前に出過ぎだ!……チツ、ゼロを援護するぞ!

バルデイエル・アサルト!!」

バル『Yes My Master』

ノエルも自分の愛機『バルデイエル・アサルト』を起動させる!

それは左手首のブレスレットから長距離用のバレルが付いた『突撃槍』『重剣』にも使用できるという形状を思わせる長大の砲身だった!

ノエル「奴らの目的を阻止するために……ゼロをやらせる訳にはいかない!!」

ゼロの後に続いてノエルも突撃していく!

それから数時間後、現在に至るのだった……

果たしてゼロとノエルは“奴ら”の目的を阻止する事ができるのか！
そして2人に襲いかかる6人の少女は一体何者なのか！
多くの謎を残して、ゼロとノエルは戦中に向かうのだった。

目覚める流星（後書き）

龍神「久しぶりの更新…なんとか10月までには外伝終わらしたい
よおお！！」

ノエル「なら、死ぬ気で頑張るんだな」

ゼロ「ノエルの言う通りだ。死ぬ気でやれ」

龍神「あつたりまえだのクラッカー！」

ゼロ・ノエル「…古ッ！！」

では、次回もお楽しみに！

導かれる者たち（前書き）

今話から、あの2人が参戦します。

楽しんで頂けると最高です！

では、始まります。

導かれる者たち

とある宇宙

広大な宇宙^{そいつ}で、とある星を目指して飛んでいる飛行船。
その船内で眠っている身体が機械で出来た『キャスト』と一人の少女がいた。

「ん……ここは？」

先に起き上がった機械の男、彼の名はラング。

機械の身体の『キャスト』で、リトルウィングの『稼ぎ頭』である。

ラング「（ここは……？俺たちはホールで戦っていた筈だが……）」

「うん……ラングさん？あれ、ここ何処ですか！？」

ラング「風下……ここは、どうやら無人の飛行船のようだ」

風下と呼ばれる少女は眼を擦り、飛行船の窓から見える広大な宇宙の景色に眼を釘付けにされる！

茜「ラングさん、見てください！宇宙ですよ！綺麗ですねえ……」

私、宇宙なんて初めてです！」

ラング「俺の世界では星の行き来は通常だったからな。もう慣れて

いる…」

茜「そうですか。あれ……？何か見えてきましたよ！」

目線の先、広がる宇宙の真ん中に一つの丸く青い『地球』に似た星が見えてきた！

すると、船内で女性の声が聞こえる。どうやら船内放送らしい。

『まもなく、第36管理世界『クシア』に到着します。乗員は大気圏の突入に備えてください』

茜「大気圏突入！？…ちょ、どうするんですか、ラングさん！？」

ラング「落ち着け。席に付いてシートベルトを着用するんだ」

茜「あ、はい、そうですね…」

冷静且つ素早く席についてシートベルトを着用するラング
一人慌てる茜を席に座らせ、落ち着かせる。

そして、ひどく揺れる船体に2人は耐えて

ようやく大気圏を越えて管理世界『クシア』の進入に成功した！

『大気圏突入が完了しました。これより着陸ポイントの探索に入ります』

茜「着いたみたいですね！見てくださいラングさん！絶壁が広がってますよー！！」

ラング「俺たちが落ちた穴は、もしかすると……」

見たことのない世界にテンションが上がる茜に対し、一人ブツブツと何か言っているラングに少し呆れていた茜だった。

茜「もう……（綜夜さんたちは、無事なんでしょうか……）」

仲間のことを心配する茜。そして未だに独り言を言っていたラングだった。

ここに、謎と戦い渦巻く世界に迷い込んだ者が戦場の真っ只中へと向かっていく！

導かれる者たち（後書き）

龍神「久しぶりの更新すいませんでしたあー!!」

ゼロ「しかも、俺が出てない」

ノエル「僕の出番も無かったじゃないか！」

龍神「きつと次があるよ!きつとね」

ゼロ「俺たちが本主役なのに、何この扱い…」

ノエル「いつかバルディエルの的にして撃ちまくって蜂の巣にしてやる」

25

龍神「やめてください死んでしまいます。(汗

にしても、お餅食べながら小説書くってというのは新鮮だね!お餅つまつま」

ということ、久々の更新すいませんです!

次からは早めに更新できるように心がけたいと思いますのでこれからもよろしくお願いします!

では、次回もお楽しみに!

閑話 ランゲ（前書き）

このキャラクターは

魔法少女リリカルなのはA's x ファンタシースターポータブル2

時と空を駆ける戦士 の作品とのコラボです！

勇往邁進さんの魔法少女リリカルなのは 閃光の殺し手^{アサン}

もよろしくお願いしますね！面白いよマジで！！

閑話 ランク

勇往邁進さんのレポートを引用

名前：ランク CV：咲野 俊介

年齢：二十歳は過ぎてる

性別：男

種族：キヤスト

出身：グラール

身長/体重：182/99

所属：民間軍事会社『リトルウィング』

階級：稼ぎ頭

魔力光：青白

魔力量ランク：AA

魔導師ランク：C

術式：ミッドチルダ・ベルカ・グラール旧文明合成ハイブリッド式

『時と空を駆ける戦士』

黒髪の短髪に、機械的な色を宿した翡翠の目を持つ。

見た目は人間そのものだが、機械の種族“キヤスト”であり、高い身体能力と頑丈な体を持っている。

口数はやや少なく、クールな性格……らしいが案外感情豊かで、顔に思っていることがすぐ出るタイプ。

手先が器用で、機械の扱いに長けている。

グラールを滅亡の危機から救った経験を持つ英雄だが、あまり有名ではないようだ。

地球での騒動を解決し、グラールに戻って二年たったある日、仕事へ行っている間、同僚たちのバカンスに置いてけぼりにされ、呆然としていたところに「穴」が開き、再び異世界に飛ばされてしまった。

外伝ではホールで綜夜たちと共に戦っているところに穴が開き、戦い渦巻く世界へと導かれる。

【デバイス】

名前：クラッドRR - ?

種類：ストレージデバイス

地球から帰った後、ラングがこっそり自作したデバイス。

両腕についたディスプレイ型のデバイスで、多くの武器をデータ化する事で携行する能力を持っている。

これを使用しラングは全ての種類の武器を、高速かつ迅速に切り替えて臨機応変に闘うスタイルを得意としている。

ちなみにRRは“rapid remake”の略で、より早くデータ化した武器を処理できるようにしたタイプ。

?はこのクラッドRRが二作目である事を示す、ちなみに?は同僚の少年に壊された。

まだ他にも機能があるらしいが……?

閑話 ランゲ（後書き）

諸事情でキャラに声優とか付けさせてもらいました。

色々と設定が変わってくるかとは思いますが、ぜひともよろしくお願ひします！

閑話 風下 茜（前書き）

宣伝、^{ディアン}酸欠帝SVさんの作品 魔法少女リリカルなのは 懺血の守^ガ
護神^ス も見てくださいね！めちやくちや面白いから！！

閑話 風下 茜

名前：風下 茜（かざした あかね） CV：戸松 遥

年齢：16歳

身長：158cm

体重：47kg

『機獣の操士』

綜夜のクラスメートでもある下宿生で、住んでいるアパートは綜夜の近所。

元気と態度が良い活発な少女で、面倒見が良く、敬語を使って喋る。見た目よりもかなり根性があり、さらに周囲の環境が変わってもすぐ馴染んでしまうタフな一面も持ち合わせている。

鳴海町出身で、父が著名なブランドメーカー会社の社長、母はさらに著名な服のデザイナー、つまりとても良いとこのご令嬢。

一人暮らしのマンションもかなり高額な場所で、その中でもさらに高い部屋に住んでいる。

成績優秀のメガネが似合うベタな少女、運動音痴がついてさらにベタさが倍率ドン、料理下手もついてさらにさらにベタさが倍率ドンドン！！

外伝でラングと共に謎の飛行船で、とある星に導かれる。

【デバイス】

名前：イクサリオン

形式：イレギュラーデバイス

管理局にロストロギア指定された、古代ベルカ文明のデバイス。自立した意志と魔力を持った純白の鎧で、高い戦闘力を持つ。

局員の不手際で起動し、逃走するも追われ、自身で転移する能力を使用、そして偶然茜の家に転移してしまった。

茜を殺されてしまった自身の過去のマスターと誤認し、彼女を守るために鎧型の使い魔を生み出しては魔導師を襲わせていた張本人。茜からは白と呼ばれている。

待機モードはミニチュア化して茜の肩に載る。

使用する剣は『エクスカリバー』と呼ばれる出自不明の長剣。

高い魔力を持つ白い刃の剣で、超高熱の魔力で敵を焼き切る太陽の剣である。

『ガード』

基本的な防衛形態。マスターの周辺を離れず追従し、障害が有れば取り除き、命令にも従う。

『アクティブ』

迎撃形態。マスターの許可が降りた時、もしくは緊急時に発動。リミッターを解除し、フルドライブでマスターの敵を殲滅する。

名前：ミカエル・F・ヴァイス
ファウスト

形式：オートマタデバイス

茜の持っていたカード内に記録されたデータを元に、茜の持つ“何か”の力とイクサリオンの魔力で完成した機械の獣。

白を基調としたカラーリングで、体は大きく、人間サイズなら二、三人は余裕で乗れるほど。

しかし巨体の割に温厚で、人懐っこい性格をしており、「優しくて力持ち」を地で行っている。

その巨軀から生み出される圧倒的なパワーと重量は、移動するだけで並大抵の敵を粉碎してしまうほど。

さらに機動力も高く、まさに動く白い要塞といったところか。

主兵装は全身に纏う強力なバリアで、敵の攻撃を全く受け付けない。またそのバリアを砲弾として打ち出す事も可能である。

名前：サタン・C・シュバルツ クラウン

形式：オートマタデバイス

ミカエルと同じく、茜とイクサリオンによって生み出された機械の獣。

黒を基調としたカラーリングで、ミカエルと比べれば体は小さいが、それでも人一人なら余裕で乗れるサイズ。

クールでそうそう他人に尻尾を振らない性格だが、意外と面倒見が良く、何だかんだで熱い性格のツンデレである。

スマートな体はしなやかで素早く動く事を得意とし、トリッキーかつスピーディな戦闘を得意としている。

機動力はミカエル以上だが、反面防御力は薄い。

しかし攻撃力はかなり高く、あらゆる部位から展開される無数の刃は、敵を微塵に切り裂く。

遠距離攻撃の手段を持たないが、それでも十二分に戦える獣戦士。

交わる異界者

とある研究所――

「ドクター、この世界に新たな反応がありました」

一人の眼帯をした少女が灰色の髪を後ろに括り、白衣を着た男に話しかける。

ドクター「管理局の者ですか？」

「いいえ。それにしては数があまりにも少な過ぎるか……」

すると、ドクターは口端を上げると不敵な笑みを浮かべる。

ドクター「ならば、“あの2人”が増援でも呼んだんでしょう……では、こちらもそろそろ“彼”に協力してもらいましょうか……」

ラング「どうやら、着いたようだな……」

空を駆ける飛行船の中で2人は地上の景色を眺めていた。

茜「……何かこっちに来てますよ？」

突如、飛行船の横を通り過ぎる黒い鎧を着た青年とソレを追うように飛翔する4人の少女。

茜「!…まだ何か来ます!」

ラング「何だツ…こいつらは!？」

先ほどとは、別にもう2人の少女が船に張り付いて紫に輝く羽のような刃とブーメラン状の両刃を振り下ろそうとしていた!

ラング「奴ら、俺たちを狙ってやがる!

風下、応戦するぞ!!」

茜「分かりました!」

ラングと茜が船から脱出しようとした

その時 ドオンツ!と何者かの砲撃が船に張り付いた2人の少女を吹き飛ばした!

その者は……

ノエル「その2人は僕の客人だ。

手荒な真似はやめてもらおう!」

ラングと茜を救ったのはノエルだった。

あれからラングと茜はノエルの指示で何とかさっきの2人の少女を撒くことに成功し、飛行船を隠すために空か

らは見え難い岩壁に挟まれた所で着陸していた。

茜「先ほどは助けていただき、ありがとうございます！」

ノエル「別に気にしなくていい。

僕はノエル・ブローニング。で、君たちが紅月 綜夜に櫻木 大地か…？」

茜「え？…：綜夜さんと櫻木さんは知り合いですけど…」

ラング「俺たちは、その2人じゃない…：俺はラングだ」

茜「で、私は風下 茜と言います！よろしくです！」

ノエル「紅月 綜夜に櫻木 大地じゃない？

記憶に誤差でもあったのだろうか…」

ノエルは顎に手を置き深く考え込む。

“記憶”の一言が気になったラングがノエルに問いかける。

ラング「“記憶”とは何ことだ…？」

それに、この世界は俺たちが居た世界とは違う…：そうだろうか？」

茜「違う世界って…：それ本当ですか?!」

ラングの言葉に驚愕する茜。それをラングは冷静に紡ぐ。

ラング「ああ…：俺たちが通った穴、アレは“異次元穴”だ。…
そうだろうか？」

ノエル「詳しいな……。ところで、君は――……。ツ!?」

ドオンツ

ノエルが何か言いかけた時、それはやって来た!

トーレ「……もう逃がしはせんぞ!ノエル・ブローニング!」

そう……。巨大な爆発とともにノエルたちの目の前に現れたのは、さつき振り切った筈のトーレとセツテだった!
そしてノエルはとんだ誤算をしていた。

奴らを振り切り、身を隠したところで、それは無意味!

なぜなら……

セツテ「我らの目から逃れることはできない」

ノエル「奴らは“戦闘機人”。あのセンサーから逃れることはできない……。戦うしかないのかッ……」

ラング「俺たちも加勢するッ……!」

茜「こっちは3人、向こうは2人。戦力はこっちが有利です!」

ラングと茜が自分の相棒デバイスを構える。すると、トーレとセツテが悲しみの込もった表情でノエルに話しかける。

トーレ「悲しいな……我らは“同じ”だというのに……」

セツテ「出会い方が違っていれば、良き仲間になれたはずです。今からでも遅くはありません、我らの計画に協力して下さい」

ノエル「黙れッ！！本体の“成り損ない”が、僕に命令するな！それに、僕は“同じ”じゃない……僕は人間だあ！！」

トーレ「違う。貴様は私たちと“同じ”だ！

それに、お前はフェイト嬢の……」

ノエル「ッ……バルディエルッ！！」

バル『A l l r i g h t m y m a s t e r 』

ノエルは怒りと共にデバイスを開放し、相手に突っ込んでいく！それをサポートするようにラングと茜も戦い参加する。

今だ謎の多いまま、戦いは終結へと進んでいく！
そして一人孤独に戦い続けるゼロは、果たして生き残っているのだろうか……

終結の果てに待っているのは終わりか……始まりか……

ゼロ・ノエル・ラング・茜。

4人の戦いは激しさを増していく……！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5556w/>

劇場版 魔法少女リリカルなのは外伝 オーガザブレイブ

2011年10月20日02時11分発行